
作田氏

すまーとたいむ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

作田氏

【Nコード】

N5572BA

【作者名】

すまーとたいむ

【あらすじ】

主人公作田紫乃は俗にいうアニメオタクと呼ばれる人種。
でもそれには訳があった。

幼なじみ伏見あやめと結城道風の2人を巻き込み、中学2年生の夏に止まった3人の時間が動き出す。

2年の時を超え、紫乃とあやめに明かされる真実は残酷で、悲しいものだった。

とか言ってみる。

私の名前は作田紫乃。

上記にあるとおり確かにアニメオタクなんだけど、そんなに重いものではない。

ただたまったま始めたバイトが最悪で。

幼なじみのあやめの人生においての軌道修正を行うこともなければ道風に会いたいなんても思わない、ただのアニオタ。

グッツを手に入れるにはそこそこのお金がかかる。

いくら放任主義の両親とはいえ、もらえるお小遣いには限りがあった。

バイトは最悪

幼なじみも最悪

同情してくれたなら、どうぞ閲覧して涙を流してください。

第一話 バイト始めます

誰かを好きになること。

私が15年間この世に生きてきて、そんなの

そんなの

「紫乃：最近元気ないよ？なんかあったの？」

「あやめ：何も無いよ…」

強いて言うならあやめが連れてる男子がまた変わったことが少し気になるかな…」

「ああー、前のはだめだった？
でもたーきゅんはさいこーかなっ」

たーきゅん・・・

確かあやめの前の前の前の彼氏がそんなアダ名つけられてたな…

もう今更気にしないけど

「でも紫乃も浮かない顔してるよ？」

あは、わかった恋でしょー？絶対そうよおー」

「うっさい、

あやのはすぐそういうのと関連付けようとするよね」

「だってそうだよ、あやめの勘っ」

「…。」

ピラララー

「んあっ、たーきゅんからメエル♪
じゃあね紫乃おー」

ひらひらとあやめに手を振りながら考える。

いつもそうだ。

あやめの回りにはいつも男子がいた。

私とあやめは小学校からの幼なじみ。

私はそこまで頭いいほうじゃないから、幼き頃から低能のあやめと同じ高校に進んだ。

小学校の頃、結城道風という幼なじみもいた。

私はあやめと道風と、小さいながらもそれなりに楽しい毎日を送っていたと思う。

ソレが崩れたのは中学2年生の夏。

道風に彼女ができた。

ただそれだけ。

私もあやめも道風のことが好きだったから、このことに耐えられなくなり、私もあやめも道を外した。

私はアニメオタクってのに仲間入り。

あやめはその美貌で同学年の男から先輩後輩までとつかえひつかえ。そう考えると道風ってどんだけすごい男なんだって思う。

でも私はあやめみたいにひどくはなかった。だってただアニオタになっただけだし。

あやめはすごかったなあ、と他人ごとのように考える。

実際道風はそこまですごくはなかったと思う。

ただ私もあやめも、道風しか知らなかったんだ。

私達の世界には道風がいて

道風中心の世界が回っていたから。

でも今は違う。

「…かえろ」

今日はあやめは彼氏とデート。

かえって新作アニメのチェックでもしよう。

最近私のお気に入り声優さんが新作アニメに登場しないのだ、ありえない。

今期こそと願う。

正直風道には感謝しないといけないのではと思う。

「だってこんな素敵な世界を教えてくれたのだからアッー！」

もう二度と風道をあうことはない。

いえは近所だったけど中学卒業と共に引っ越したし高校も天と地の差だ。

道端で絶叫したから人が変な目で見てくるな

左前方に某ドーナツ屋を発見、突入っ！

「いらっしやいませー」

ちらり、とチラシが目に入った。

《バイト募集》

男女問わず、16歳以上…

そういえば

ペンタブが欲しかったんだ、私。

「あのーバイトしたいんですけど」

新しい自分探し

という名の資金集め

ということ

面接を終え、しばらく待たされたあと女の人が私を呼んだ。

「採用に決まりました、早速で悪いのですが、明日から来てもらっていいですか？」

適当だなこの店もう決まり？

でもこの店員さんはいい人そうな美人さん

「はい、構いません」

「そっか、あ、

じゃあせっかくだし、同じ年のバイトの先輩、今丁度いるから紹介とくね、

結城くん」

「はい」

胸騒ぎ

嫌な予感

見間違えたりしない

結城道風。

「紫乃…？」

バイトやめよっかな

第一話 バイト始めます（後書き）

はじめまして、すまーとたいむです。

アニメオタクの女の子は男性に対する理想が高いと思います。

見てくださった方本当にありがとうございます。

次回も見てくだされば幸いです。

第二話 バイトやめます

「やっぱやめます」

なんて言える勇氣はなかった。

とりあえず美人店員さんにお礼を言ってお店を出た。
風道はなにか言いたそうだったなあ…

「とりあえずアニメイトにでもよるか」

アニメイトというのはアニメ専門のショップである。

そういえば今期のアニメって何が始まるんだっけ
前にはまった『ゼロの使い魔』の二期が始まるなあ
あ きょう『アニメディア』の発売日だ買わなきゃ
お金あったかな

そいや6時から『UN-GO』がある…「紫乃」

最終回だしやっぱリアルタイムでみたいな…間に合うかな

「紫乃」今5時過ぎか…やっぱ無理だわ妹に録画頼もう
携帯携帯…（ゴソゴソ）「紫乃!!」

「紫乃!!」

ぴくり

肩がはねた。

振り返るのが怖い

「俺のこと…覚えてるか…？」

結城道風だ、ほら、お前の家の真ん前に住んでた…」

覚えてるも何もいつときも忘れたことがない

「なあ…こっちむいてくれよ」

見たい

風道と話がしたい

でも感情とは裏腹に体が動かない

「紫乃…」

「か…」

風道…

ひ、ひさしぶり…」

私の顔を包む、偽りの笑顔

風道を見た瞬間に崩れた

「し、紫乃…元気だったか？」

悲壮感に満ちた顔に不信感を抱いたのか、風道が不穏な顔を見せる。

「うん…じゃあ私用事があるから」

「お、おい、紫乃！」

ああ

ああ

私はまだ

風道のことが

「紫乃おー…やっぱり元気ないよ？
どうしたの」

昨日のこと、あやめに話すべきか否か…

「な、なんでもないよ。
それより、私バイトはじめたんだ」

「ええーっいいなあ
あやめも始めようかなあ…でもたーきゅんと一緒にいる時間減る
し…いっか」

「じゃあ時間だから」

「うーん？がんばってね」

足取りが重い

風道に合うのが怖いんだ

でもアイツのせいでせっかく始めたバイトを辞めるのも癪。

お偉いさんに頼んでシフトを考えてもらおう。

初めてのバイトに胸を高まらせるなんて今の私にそんな余裕はなかった。

「こんにちわー」

風道は・・・

いない

「あ、こんにちは、
昨日は挨拶もなくごめんなさいね、私伏見せせらっっています、
よろしくね」

伏見…

あやめと同じ名字だ

お姉さんがいるとは聞いていたけど…小学校の頃はもう県外の高校
に通ってるって聞いただけだし…もしかしたら

「よ、よろしくお願いします」

「早速だけど仕事してもらうわね、これに着替えて」

「はい」

制服はまあまあ普通。

正社員のよりは可愛いと思う。

「あら、似合ってるわ、じゃあちよつと待っててね」

伏見さんは私と同じ制服を着ているから正社員ではないらしい。

数分待ってから伏見さんは再び戻ってきた。

「さ、挨拶して。」

昨日も紹介したと思うけど結城風道くん。

バイト歴も1年ちよつとだし、同じ年でやりやすいと思うから、風道くんは紫乃ちゃんのお世話頼むわね」

「
・
・
・
」

やっぱり

辞めるべきだったらしい。

第二話 バイトやめます（後書き）

第二話です。

個人的に風道くんが好きなのでもっと彼には出て欲しいです。

次回作も見えていただければ幸いに感じます。

感想もあれば参考にしていききたいのでぜひお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5572ba/>

作田氏

2012年1月15日04時59分発行